

あなたもチャレンジ！ 家庭菜園

カリフラワー 純白な花蕾を適期に収穫

園芸研究家●成松次郎

カリフラワーの生育適温は15～20度といわれ、耐暑性、耐寒性のある野菜です。夏まき・秋冬取りが一年で最も作りやすい時期で、温暖地では7月中旬～8月下旬が種まき期です。

「品種」カリフラワーは花蕾（からい）ができるには、茎葉の大きさとある程度の低温が関係し、中生品種は早生品種に比べ、より進んだ生育と、より低い温度が必要です。そのため、長い間の収穫を楽しむには品種の使い分けが必要です。早生品種では「バロック」（サカタのタネ）、「スノークラウン」（タキイ種苗）、「雪まつり」（武蔵野種苗園）など、中生品種では「輝月」（野崎採種場）、「スノードレス」（タキイ種苗）などがあります。茎葉と花蕾がコンパクトな「美星」（サカタのタネ）、ステイツク状に花茎が伸びる「カリフローレ」（トキタ種苗）など、ユニークな品種もあります。

「苗作り」直径7・5～9cmのポリポットを使い1ポット当たり4～5粒をまき、子葉展開時に密生部を間引き、本葉2～3枚で1株に間引き、本葉5～6枚まで育てます。128穴のセルトレイでは1穴2粒まき、間引いて本葉3～4枚まで育てます（図1）。育苗期間中は、防虫ネットのトンネル被覆で害虫の飛来を防ぎます。

「畑の準備」植え付け2週間前に、1平方m当たり苦土石灰100gをまいて、深く土を耕しておきます。1週間前に畝幅70～80cm、深さ15～20cmの溝を掘り、この溝1m当たり化成肥料（NPK各成分10%）100g程度と堆肥2kgを施し、土を戻してよく混ぜて畝を作ります（図2）。

「植え付け」本葉5～6枚の頃、株間40～45cm程度に植え付けます（図3）。植え傷みが起こらないように、植え穴には十分水を注いでおきましょう。

「追肥」植え付け20日後ごろに畝の片側に化成肥料を畝1m当たり50gくらいまいて、土寄せします。その後ごろに畝の反対側に同量を施用します（図4）。

「病害虫の防除」ヨトウムシ、コナガなどが多いので「トアロー水和剤CT」などで駆除します。

「収穫」花蕾が見えたら、花蕾に日焼けや汚れが付かないように、外葉の1～2枚を内側に折つて花蕾に載せます（図5）。花蕾が12cm以上の大きさになり、つぼみの表面が緻密なうちに、外葉を6～7枚付けて切り取ります（図6）。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

